==========

Vas-Cog Journal

日本脳血管・認知症学会学会誌

No.2 Dec 1, 2015

VAS-COG J

Official Journal of Vas-Cog Japan Society

==========

日本脳血管･認知症学会（Vas-Cog Japan）からのご挨拶

Vas-Cog Japan　理事長
阿部康二

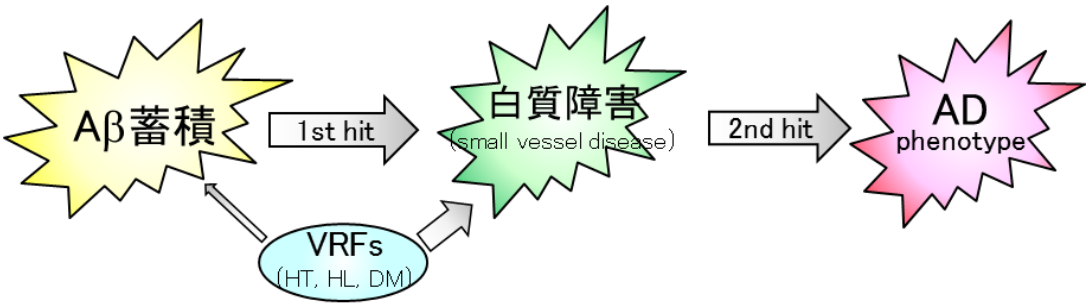
これまで5回の研究会を経て、2014年10月から新しく発足した「日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）」は、お陰様でこの1年間でさらに発展して参りました。研究会から学会への脱皮、日英中3か国語で新しくnewsletterの発行、52名の評議員を含む100名以上の医師会員、各委員会の活性化（学会化促進委員長＝浦上克哉理事、会員増加・広報委員長＝羽生春夫理事、学会誌編集委員長＝東海林幹夫理事、財務委員長＝森下竜一理事）、事務局の固定化等により次第に学会としての体裁を整備してきております。これもひとえに本学会を支えて頂いている会員の先生方、評議員の先生方、理事の先生方のご尽力に依るものと心より感謝申し上げます。

2015年は本学会にとって記念すべき慶年となりました。山口修平先生ならびに川畑信也先生を両会長とした第6回大会（Vas-Cog Japan 2015）が、長田乾先生を会長とした世界脳血管・認知症学会（Vas-Cog World 2015）と東京ファッションタウンで9月16-19日に同時開催されました。海外から予想を超える多数の参加者をお迎えして、しかも今回初めての共催と言うことで親学会であるWorldの方でも大変刺激を受けたようで、両学会の新しい相互発展にも繋げて頂いたような気が致します。両学会の共催に多大なご貢献を頂きました3先生に改めて感謝申し上げます。また本学会と連携しているVas-Cog Asia学会の方も年々活性化してきており、2015年は10月2日にKuala Lumpurで盛会裏に終了し、2016年は7月14日にBrisbaneで第5回大会が開催される予定となっています。

さて本学会は急増しているアルツハイマー病（AD）や血管性認知症は勿論のこと、レビー小体型認知症やパーキンソン病関連認知症、前頭側頭型認知症などの主たる認知症に関して「超高齢化社会にあって注目されている血管と認知症の関係」について、従来分類のような単なる血管性認知症という観点を超えた新しい幅広い視点から臨床的・基礎的研究を進めることを目的として設立されています。最新の研究成果によればAβ蓄積だけではAD症状を呈するには不十分であり、small vessel disease（SVD）としての大脳白質障害が合併して初めてAD症状（phenotype）を発現することが解明されつつあります（2 hits hypothesis）。

本学会ではこのような新しい学術的社会的要請に応えて、今後とも血管の機能的・器質的障害と認知症発症との深い関連について研究解明し、新しい診断法や新しい治療法の開発に発展させていくことで、日本を始めとした人類全体の健やかな高齢化社会の維持発展に資することを目指して行きます。皆様方の積極的なご参加をお待ちしています。

2015年12月1日



Vas-Cog Japan 2015 開催の報告

島根大学医学部内科学講座内科学第三
山口修平

第 6 回日本脳血管・認知症学会学術大会（Vas-Cog Japan 2015）を、川畑信也先生（八千代病院神経内科）と小生が会長を務め、平成 27 年 9 月 19 日に東京ファッションタウンにて開催いたしました。今回は研究会から新たに学会として名称変更した最初の会になりました。またちょうど Vas-Cog World（長田乾会長、阿部康二副会長）が日本に誘致され同時開催となり、活気のある会になりました。Vas-Cog Japan への最終参加者数は約 150 名でありました。

学会のプログラムとしては特別講演 2 演題、教育講演 2 演題、シンポジウム 1 題（5 演題）を企画いたしました。一般演題には 45 演題と多数の応募があり、その内 11 演題を若手奨励賞候補演題といたしました。まず特別講演 1 ではカリフォルニア大学バークレー校の William Jagust 先生に PET を使った Amyloid および Tau imaging の最近の進歩について講演いただきました。Tau の沈着は Amyloid と比較して、その部位や時期あるいは臨床症状との関連に違いがあり、アルツハイマー病の治療を考える上で Tau も今後重要なターゲットとなる可能性があるとの講演でした。特別講演 2 は島根大学の小林祥泰先生が脳卒中後のアパシーについて、これまでの研究成果を報告されるとともに、血管性認知症を予防する上でアパシーへの対策が重要であるとの講演でした。教育講演では、脳卒中に対する再生医療に関する講演と記憶障害と脳ネットワークの関連についての講演をしていただきました。いずれも最近の重要なトピックスであり、今後の研究の進歩が期待されます。シンポジウムでは「血管性認知症の予知予防・病態解明」のテーマで、酸化ストレス、脳ドック、精神症状、前頭葉機能、再発危険因子等のさまざまな分野と観点から最新の血管性認知症に関わる研究成果を報告いただきました。応募のあった一般演題はすべて口演とし、その中で若手には YIA 候補として長めの時間をとって発表いただきました。いずれもすばらしい意欲的な研究成果でした。基礎医学、臨床医学それぞれから最優秀演題と優秀演題を 1 題ずつ、計 4 演題を表彰させていただきました。Jagust 先生にはランチョンセミナーでも講演いただき、Vas-Cog World の方からも聴衆参加があり、ホットな議論がなされました。そして最後に会員懇親会を学会場前で開催し、来年の金沢での本学会の紹介もいただき、和気あいあいとした懇親の場を持つことができました。最後に、皆様のご支援で実りある学会になりましたことに感謝申し上げます。

Vas-Cog Japan2015 を終えて

八千代病院認知症疾患医療センター
川畑信也

第 6 回日本脳血管・認知症学会 Vas-Cog Japan2015 を島根大学医学部　山口修平教授と東京ファッションタウンにおいて 2015 年 9 月 19 日に開催させて頂きました. 2010 年に研究会として発足した本会は，今回から学会に移行し長田　乾先生と阿部康二先生が主催された Vas-Cog 国際学会との同時開催となりました.

特別講演 1 ならびにランチョンセミナーでは William Jagust 先生からアルツハイマー型認知症ならびに老化における amyloid ならびに tau の役割についてエネルギッシュな講演を頂きました．また特別講演 2 では，島根大学名誉教授の小林祥泰先生から脳卒中後アパシーと血管性認知症についての長年のご研究の一端を伺うことができました．血管性認知症における尾状核の重要性をご示唆頂きました．シンポジウムでは，5 人の先生がたから血管性認知症の予知予防・病態解明について基礎から臨床にわたる広範囲の議論をして頂きました．モーニングセミナーでは，東海林幹夫先生と小野賢二郎先生からアルツハイマー型認知症の成因に関する最新の知見をご教示頂き有益な講演であったと思います．その他にも多くの先生がたに教育講演やアフタヌーンセミナーなどを担当して頂き血管性認知症について多くの情報を得ることができたことを感謝申し上げます．一般演題も 40 を超える応募があり，とくに若手奨励賞演題では 11 題の発表を頂き若手の先生がたの血管性認知障害に対する関心の高さは今後の本学会発展のために力強いエネルギーになるものと思います.

Vas-Cog 国際学会と連動し開催した結果，会場や聴衆の機会を含めてややまとまりに欠けたきらいはありましたが，認知症の原因を考えるうえでアルツハイマー型認知症病変とともに血管性病変が重要な役割を果たしていることがより明らかになった学会かと思います．認知症イコールアルツハイマー型認知症の印象が強い現在の風潮のなかで血管性認知症あるいは血管性認知障害の存在意義を今後ともアピールしていかなければならないとの思いを強く感じました.

最後に本学会に参加して頂きましたすべての方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます.

VAS-COG World2015 印象記

秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部
長田　乾

Vas-Cog World 2015 は、2016 年 9 月 16 日から 19 日まで東京都江東区有明の東京ファッションタウンで開催されました。開催 2 日目は台風のような大荒れの天気になりましたが、国内外から 300 名を超える多くの研究者が集い、大変有意義な学術集会となりました。

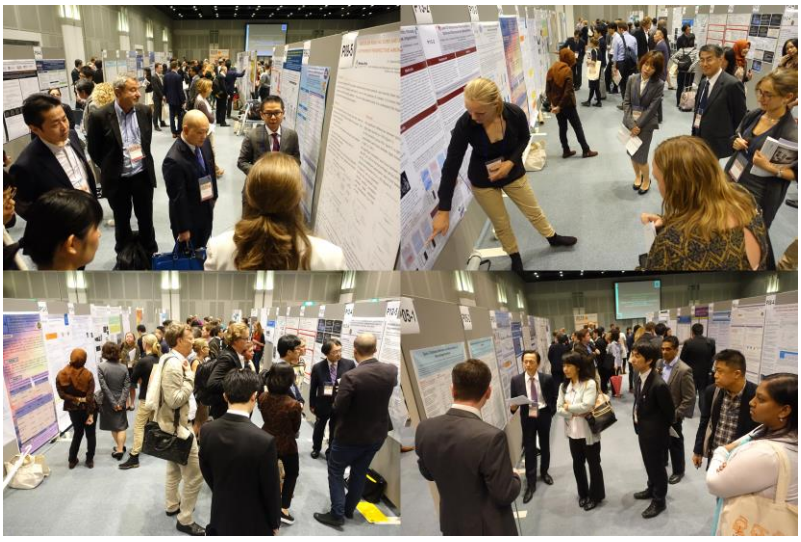
9 月 16 日には Pre-congress Event として STROKOG （Consortium of Studies of Post-stroke Cognitive Disorders）の研究会に続いて、Raj Kalaria、猪原匡史、Florence Pasquier、福井俊哉による教育講演が行われた。

9 月 17 日は、長田乾、阿部康二、Raj Kalaria によるスピーチで Opening Ceremony が行われ、Vas-Cog World 2015 のプログラムがスタートした。テーマ①「血管性認知障害の診断」（座長：東海林幹夫、Sandra E. Black）では 5 演題、テーマ②「小血管病と認知症」（座長：長田乾、Geert Jan Biessels）では 6 演題の発表が行われた。阿部康二と長田乾によるふたつのランチョンセミナーを挟んで、午後からはポスターセッションおよびポスターレビューセッションが行われた。ポスター発表は、27 分野で合計 159 演題が発表された。さらに討論①「血管性危険因子はアルツハイマー病の主たる病因となり得るか？」（座長：小室一成、Raj Kalaria）

では 4 名の演者が発言した。若手研究者のセッション①「認知症と血管性危険因子」（座長：Mohammad Arfan Ikram、山下徹）では、4 演題の発表が行われた。夕方は長尾毅彦と内山真一郎によるふたつのイブニングセミナーが行われた。

9 月 18 日は、テーマ③「アルツハイマー病とその他の認知症における血管因子」（座長： Raj Kalaria、森下竜一）の 6 演題の発表でスタートした。引き続いてテーマ④「脳卒中後認知症、大脳アミロイド血管病と危険因子」（座長：Tsong-Hai Lee、水野敏樹）では 6 演題の発表が行われた。福井俊哉と寺山靖夫によるふたつのランチョンセミナーを挟んで、午後からは Vas-Cog 総会に引き続いて、午後からはポスターセッションおよびポスターレビューセッションが行われた。さらに討論②「軽度認知障害からアルツハイマー病へのコンバートを予防することは可能か？」（座長：Elisabet Englund、光山勝慶）では 4 名の演者が発言した。若手研究者のセッション②「アルツハイマー病における脳血管の関与」（座長：猪原匡史、Kaavya Narasimhalu）では 3 演題の発表が行われた。夕方は長田乾によるイブニングセミナーに引き続いて、TOC West Tower においてバンケットが行われ大いに盛り上がった。

9 月 19 日のプログラムは、テーマ⑤「神経精神疾患における血管因子」（座長：Ingmar Skoog、John O’Brien）の 6 演題の発表でスタートした。引き続いてテーマ⑥「認知症の画像診断とバイオマーカー研究の進歩」（座長：Christopher Chen、冨本秀和）では 6 演題の発表が行われた。森下竜一によるランチョンセミナーの後に、長田乾および阿部康二による総括で、Vas-Cog World 2015 の全てのプログラムが終了した。



ご参加のみなさま、運営委員、スタッフのみなさまに心より感謝申し上げます。

※本文中は発表者や座長の敬称を省略して記載しました。

Speaker
VAS-COG 2015 TOKYO

VAS-COG 2015 TOKYO
Chairperson

On-Site Registration
Pre-Registered

Vas-Cog Asia 印象記

国際医療福祉大学臨床医学研究センター
山王病院・山王メディカルセンター
脳血管センター
内山真一郎

第４回の Vas-Cog Asia 4 は今回もアジア太平洋脳卒中学会（APSC）と合同で 2015 年 10 月 2 日午後にマレーシアのクアラルンプールで開催されました。今回は前回以上に多彩な発表があり、認知症と血管障害との関連について基礎、病態、疫学、画像、予防、治療の新たな視点からの講演が多く、活発な質疑が行われました。また、Young Flash Talk のセッションではアジア諸国の若手研究者達から意欲的な発表があり、注目を集めました。認知症と脳血管障害は介護医療の対象となり、健康寿命を短縮する二大疾患であり、アジアでも増加し続けており、これらの疾患を研究対象とする本学会の意義は今後益々大きくなるものと思われます。

World Stroke Organization（WSO）は World Stroke Day のテーマとして preventable dementia を宣言しました。この宣言では「preventable dementia を予防し、診断し、治療しよう」と呼びかけた上で、「無症候性脳血管障害は脳卒中の 5 倍多く発生し、思考、情緒、性格に影響を与える。あらゆる主要な認知症は血管性要素を含んでおり、アルツハイマー病では 80%にも及ぶ。したがって、全ての認知症で血管性因子を同定し、治療する必要がある。」と強調しています。APSO は WSO の地域機関として位置づけられるようになっており、APSC と合同開催している Vas-Cog Asia でも WSO と連携して preventable dementia の啓発活動を積極的に展開する必要があるように思われます。Vas-Cog Asia はオーストラリアのブリスベンで 7 月 14 日（木）午後に次回も APSC 2016 と共同開催されます。ブリスベンは人口 200 万のオーストラリア第三の大都市であり、温暖な気候とゴールドコーストなどの観光地に恵まれ、旅行者に大変評価の高い都市です。Vas-Cog Asia 5 に多数の皆様が参加されることを期待しています。

Vas-Cog Japan 2016 のご紹介

金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(神経内科学)
山田　正仁

愛媛大学大学院 分子心血管生物・薬理学
堀内　正嗣

この度、平成 28 年（2016 年）8 月 6 日（土）に金沢都ホテルにおいて第 7 回日本脳血管・認知症学会学術大会（Vas-Cog Japan 2016）を開催させていただきます。大会長は愛媛大学分子心血管生物・薬理学の堀内正嗣と金沢大学脳老化・神経病態学（神経内科学）の山田正仁が共同で担当させていただきます。

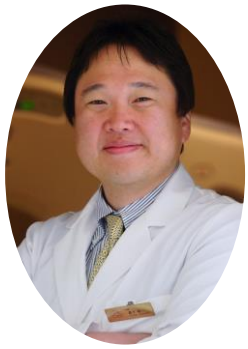
わが国では、急速な高齢化により認知症患者が飛躍的に増加しています。認知症の原因疾患では、アルツハイマー病と血管性認知症が多く、これらの疾患のメカニズムの解明と克服はわが国だけではなく、世界中で非常に重要な課題となっています。高齢者では脳アミロイドアンギオパチーが約半数にみられ、アルツハイマー病では脳アミロイドアンギオパチーが約 9 割の患者さんにみられます。一方、心臓を含めた血管病変と代謝性疾患は認知症の発症に関わっていることが明らかとなっています。今回の学会では、「心血管・代謝と認知症および脳アミロイドアンギオパチー」をメインテーマとし、血管性認知障害との関連、病態解明や治療法開発に関連した企画を考えています。画像診断法の進歩に伴い、脳アミロイドアンギオパチーは臨床診断可能になってきており、病態解明に基づく新規治療の開発が急務です。本学会では招待講演を含めて、心血管病変と認知症との関連や脳アミロイドアンギオパチーに関するトピックスを取り上げたいと考えています。

本学会は血管性認知症をターゲットとして、基礎と臨床の研究者が一同に会して熱い議論を行うことを目的に 2010 年に研究会として発足し、さらなる発展を目指して 2014 年に学会となりました。2010 年の研究会発足時より毎年研究会が開催され、これまでの学術大会では東京や京都といった大都市で開催されてきました。第 7 回では石川県金沢市での開催を予定しており、初めての地方都市開催となります。2015 年に北陸新幹線が開通し、金沢へお越しいただ

くことが以前よりも格段に容易となっています。金沢は歴史を有する城下町で、古い町並みや文化が保存されている数少ない街の一つです。ご参集いただく多くの皆様方にとって有意義な会となるような準備を進めていく所存ですので、どうぞ皆様、金沢市で開催されます第 7 回日本脳血管・認知症学会学術大会（Vas-Cog Japan 2016）にご参加のほど、心からお願い申し上げます。

Vas-Cog JAPAN 理事会報告

大阪大学大学院医学系研究科　臨床遺伝子治療学
森下竜一



日本脳血管･認知症学会第 7 回理事会が、2015 年 9 月 18 日（金）東京ファッションタウン TFT 西館・3F（スタッフルーム大）に於いて理事 14 名が参加し開催さました。議題としては、「今後の開催予定」「学会化へ向けての準備」が討議され以下が報告及び承認されました。

【会員数】

正会員：131 名（2015 年 9 月 10 日現在）

【各委員長からの報告】

・学会化促進委員長（浦上克哉先生）

会員の所属により承認が下りるかどうか申請が厳しくなっているという話があるため、申請基準を再確認する必要あり。

・会員増加・広報委員長（羽生春夫先生）

メーリングリストにてさらなる会員増の依頼を行う。ホームページへのバナー広告を掲載するため、趣意書を作成、配布していく。

・学会誌編集委員長（東海林幹夫先生）

第 2 号については当大会後作成予定。（各担当者へ連絡予定）

・財務委員長（森下竜一先生）

会計報告および監査報告については、今年度より学会となったため、次回以降、資料 1 に合わせた料を作成し、監査していくこととする。今後、理事の中より、監事を松原先生に追加してもう 1 名選定することを検討する。

【今後の開催予定】

(1) 第 7 回学会総会

（2016 年 8 月 6 日（土）
金沢都ホテル）

当番理事：堀内正嗣先生、山田正仁先生

(2) 第 8 回学会総会

（2017 年 8 月 5 日（土）
虎ノ門ヒルズ（東京））

当番理事：内山真一郎先生、小室一成先生

副会長：北川一夫先生

(3) 今後の開催予定

第 9 回学会総会（2018 年）

当番理事：浦上克哉先生、松原悦朗先生

第 10 回学会総会（2019 年）

当番理事：秋下雅弘先生、池田佳生先生

(4) Vas-Cog Asia 4

jointing with APSC2015 in Kuala Lumpur

（October 2 (FRI) 2015, Shangri La Hotel (Kuala Lumpur, Malaysia)）

Chair: Koji Abe, Ramesh Sahathevan, and Christopher Chen

【COI について】

COI について類似他学会に準ずる方針で今後事務局を中心に検討を進める予定。他学会の資料を参考に当学会独自の記載を作成していく。

【役員名簿】

●顧問

森　啓（大阪市立大学大学院医学研究科老年医科学大講座脳神経科学　教授）

●理事長

阿部　康二（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学　教授）

●理事

秋下　雅弘（東京大学大学院医学系研究科加齢医学　教授）

池田　佳生（群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学　教授）

内山　真一郎（国際医療福祉大学臨床医学研究センター　教授／山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター　センター長）

浦上　克哉（鳥取大学医学部保健学科生体制御学　教授）

川畑　信也（社会医療法人財団新和会八千代病院神経内科　部長）

北川　一夫（東京女子医科大学神経内科教授・講座主任）

神﨑　恒一（杏林大学医学部高齢医学　教授）

小室　一成（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学　教授）

佐田　政隆（徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学分野　教授）

東海林　幹夫（弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座　教授）

鈴木　正彦（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター神経内科　准教授・診療部長）

瀧澤　俊也（東海大学医学部内科学系神経内科　教授）

寺山　靖夫（岩手医科大学内科学講座神経内科・老年科分野　教授）

冨本　秀和（三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学　教授）

長田　乾（秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部　部長）

羽生　春夫（東京医科大学高齢診療科　教授）

福井　俊哉（医療法人花咲会かわさき記念病院　院長）

堀内　正嗣（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・薬理学　教授）

松原　悦朗（大分大学医学部神経内科学講座　教授）

水野　敏樹（京都府立医科大学大学院医学研究科神経内科学　教授）

光山　勝慶（熊本大学大学院生命科学研究部生体機能薬理学分野　教授）

三村　將（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室　教授）

森下　竜一（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学　教授）

山口　修平（島根大学医学部内科学講座内科学　第三教授）

山田　正仁（金沢大学大学院医学系研究科脳老化・神経病態学（神経内科学）　教授）

日本脳血管･認知症学会（Vas-Cog Japan）会則

【第一章　　名称】
第１条　本会は日本脳血管・認知症学会と称し、 Vas-Cog Japan と略称する。
第２条　本会は事務所を〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-8-29　テラサキ第２ビル８階　　株式会社コネット内に置く。
【第二章　　目的および事業】
第３条　本会は日本における血管性病変と認知症との関連について幅広い視野から臨床的基礎的研究を行い、併せて国際的な当該分野研究者との情報交流を通じて、認知症の原因や病態における血管性病変の関与を明らかにすることで創薬の可能性も探り、認知症研究の新しい分野の発展に資するために設立された。
第４条　本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
１．会誌の刊行
２．学術大会の開催（学術大会は参加者の参加費で運営されるが、共催も可能である。）
３．研究の奨励および表彰
４．その他の事業
【第三章　　会員】
第５条　本会の会員はつぎのとおりとする。
１．正会員
２．学生会員
３．賛助会員
４．顧問
第６条　会員は会誌の配布を受け、また学術大会および会誌に研究成果を発表できる。
第７条　正会員ならびに学生会員は本会の目的に賛同し、別に定める年会費を納める個人とする。入会を希望するものは所定の申込用紙に必要事項を記載し、年会費を添えて、事務局に申し込まなければならない。
第８条　賛助会員は本会の目的に協賛し、本会の事業を援助するため、所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。
第９条　顧問は血管性病変と認知症との関連の発展に特に功績のあった者で、理事の推薦に基づき、理事会で審議し決定する。顧問は年会費の納入を免除される。
第１０条　会員は次の場合には会員および役員の資格を喪失する。
１．退会の届を出したとき
２．３年間会費を滞納し、かつ催促に応じないとき
３．その他本会則に違反し、あるいは本会の名誉および信用を甚しく傷つけ、評議員会で除名の決議がなされたとき
第１１条　正会員および学生会員は、別途定める事由に該当したとき、届出に基づいて理事長が休会を認めることができる。
【第四章　役員および評議員】
第１２条　本会には次の役員をおく。
理事　２０名以内
監事　２名
第１３条　本会には評議員をおく。
第１４条　監事および本項に定めた以外の理事は別に定める規定に従い選出される。評議員は別に定める規定に従い選出される。大会長は理事会の推薦に基づき選出される。各委員長は理事長が指名し、理事会の承認を受ける。理事長、大会長、学会化推進委員長、財務委員長、編集委員長は理事となる。
第１５条　理事長は本会を代表し、会務を掌握し、評議員会を招集する。理事長および理事は理事会を組織し、会務を執行する。理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について評議員会および総会もしくはその他の方法により会員に報告しなければならない。
第１６条　本会に学会化推進委員会、財務委員会、編集委員会を設置する。理事長は必要に応じ、理事会の承認を得てほかに委員会を設けることができる。第１４条で定める場合を除き、それぞれの委員会の委員長は、原則として理事の中から理事長が指名し、理事会の承認を受ける。委員は理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。委員の任期は４年とし再選は妨げない。
第１７条　監事は会計を監査する。また本会の運営に関して理事会に出席して意見を述べることができる。但し、他の役員および委員を兼ねることはできない。
第１８条　役員および評議員の任期は会計年度を単位とし、理事長、事務局長、理事、監事および評議員の任期は２年とする。理事長および監事の連続三選は認められない。
第１９条　その他の役員に欠員が生じた場合には理事会が必要に応じて役員を補充することができる。但し、それらの任期は前任者の残任期間とする。
第２０条　評議員は評議員会を組織し、学会の運営に必要な諸事項を審議する。
第２１条　大会長はその年度の本会を代表し、年度学術大会を含め本会事業の責任者としての任務を遂行する。 １．大会長は理事会において推薦し、決定する。 ２．大会長の任期を１年とし、前回学術大会の終了翌日から学術大会終了の日までとする。
【第五章　　会議】
第２２条　学術大会、 評議員会および総会は、毎年１回開催される。
第２３条　理事長は総数の１／３以上の評議員の要請があるときは臨時評議員会を開催しなければならない。
第２４条　理事会は必要に応じて、理事長が招集する。理事会は理事総数の３分の２以上の出席をもって成立し、出席理事の過半数の賛否をもって議決する。賛否同数の場合は理事長が議事を決する。理事会にはその他理事長の指名したものが出席できる。
【第六章　　会計】
第２５条　本会の会計年度は４月１日に始まり、３月３１日に終わる。
第２６条　本会の経費は、本会年会費、賛助会費、各種補助金および寄付金をもって充てる。
第２７条　本会の経費は一般会計、基金会計によって処理する。
第２８条　一般会計は基金会計以外のすべての本会の収支を記載するものとする。
第２９条　基金会計は、本会の安定的財政基盤を確保するための基金に係る収支のほか、特別の目的のために設定された各種基金の収支について記載する。
第３０条　各種基金の設定、繰り入れおよび使用については、理事長の承認を得なければならない。
【付則】
１．本会の会則を改定するには、理事会の承認を得なければならない。
２．役員報酬は支給されない。
３．本会則は理事会で承認された翌日より、施行される。

平成２６年１０月１日制定

編集後記

弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座
東海林幹夫

日本脳血管・認知症学会の発足に伴い旧 Vas-Cog Japan News and Letter は本号から Vas-Cog Journal と名称が変更され，Official Journal となりました. ここに No.2 をお送り致します．No.1 に引き続き学会関連情報の提供とともに今後は学会誌としての学術原稿などの掲載も予定しています．日本脳血管・認知症学会事務局として株式会社コネットの支援も始まり，学会としての基盤も整ってきました.

本号では，本年 9 月 19 日，東京ファッションタウンにて開催された第 6 回日本脳血管・認知症学会の概要を掲載しました．島根大学修平先生，八千代病院川畑信也先生の主催で，45 演題の一般演題と特別講演，教育講演，シンポジウムが行われました．例年に比べて，規模・レベルとも格段の進歩が感じられました．今回は，Vas-Cog World 2015 と同時に開催され，Dr. Kalaria など国外からの参加者があり，記念すべき学会となりました.

Vas-Cog World2015 は秋田脳研長田乾先生，岡山大学阿部康二先生の主催で同時に開催され，国内外から多数の参加者が集いました．長田先生に印象記を執筆していただきました．続いて開催された Vas-Cog Asia の現状を内山慎一郎先生にご報告いただきました．この研究分野が，世界的に急速に発展している印象持ちました.

来年の第 7 回は金沢市で 8 月に開催されます．皆様の御参加をお待ちしています.

これまでの開催と今後の予定

第 1 回研究会（2010 年 8 月、東京）会長：長田　乾、福井俊哉
第 2 回研究会（2011 年 8 月、東京）会長：阿部康二、光山勝慶
第 3 回研究会（2012 年 8 月、東京）会長：森下竜一、寺山靖夫、阿部康二
第 4 回研究会（2013 年 8 月、東京）会長：東海林幹夫、羽生春夫
第 5 回研究会（2014 年 8 月、京都）会長：冨本秀和、水野敏樹
第 6 回学会　（2015 年 9 月、東京）会長：川畑信也、山口修平（Vas-Cog World と Joint）
第 7 回学会　（2016 年 8 月 6 日、金沢）会長：堀内正嗣、山田正仁
第 8 回学会　（2017 年 8 月、東京）会長：内山真一郎、小室一成
第 9 回学会　（2018 年予定）　会長：浦上克哉、松原悦朗
第 10 回学会　（2019 年予定）　会長：秋下雅弘、池田佳生

－これ以降は未定－